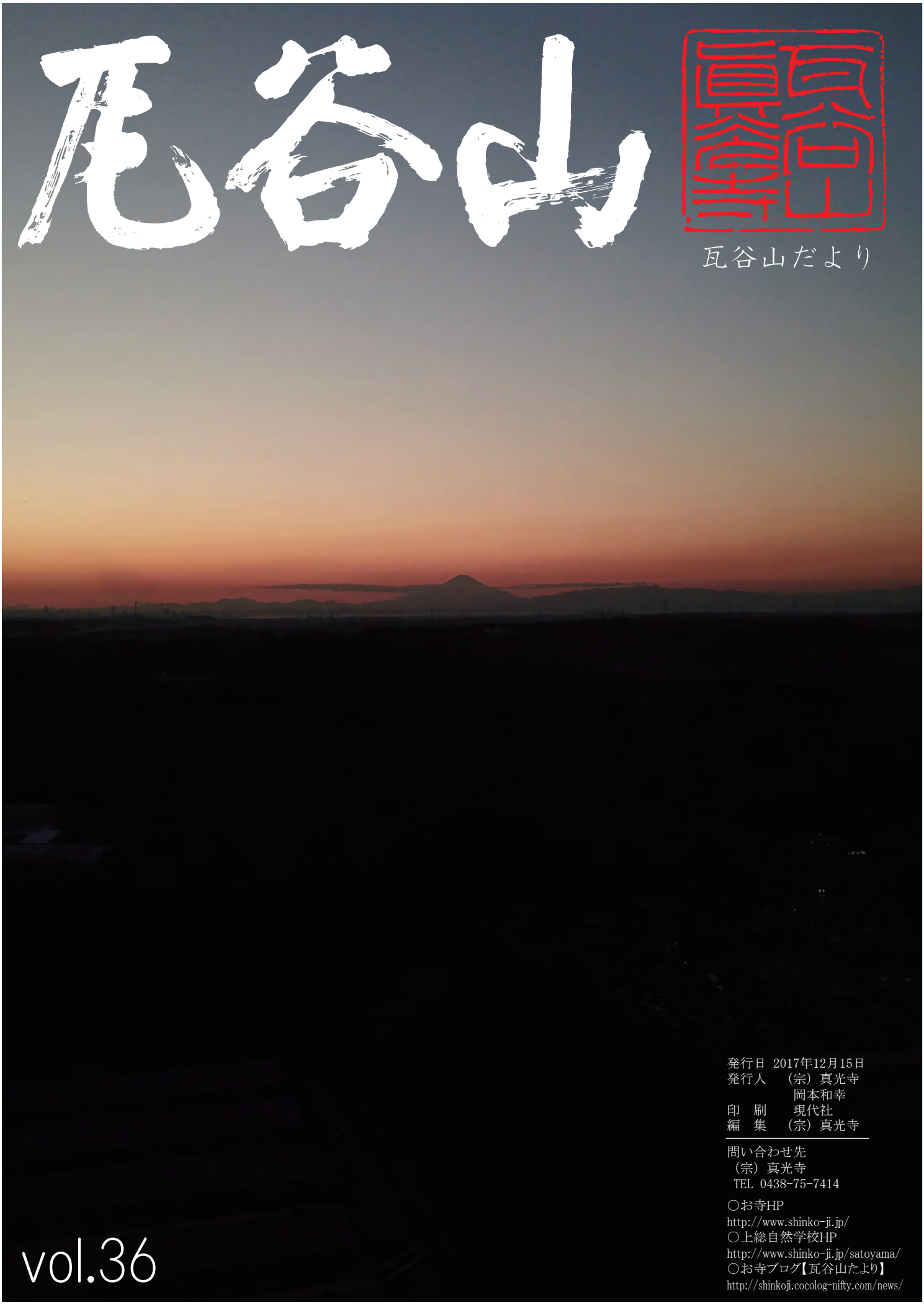
瓦谷山

瓦谷山だより



vol.36

発行日 2017年12月15日
発行人 （宗）真光寺
岡本和幸
印 刷 現代社
編 集 （宗）真光寺

問い合わせ先
（宗）真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
http://www.shinko-ji.jp/
○上総自然学校HP
http://www.shinko-ji.jp/satoyama/
○お寺ブログ【瓦谷山たより】
http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/

ごあいさつ

今年の春、父の五十回忌の法要に参列してきました。私は広島県三原市で寺の子供として生まれました。三原は小早川隆景が開いた三原城を中心とした小さな城下町で、お寺もたくさんあります。鯛やタコなど海産物が有名で、かつては酒造りの町としても知られ、銘酒「酔心」は日本画の大家、横山大観に愛されました。

城下町から石段を百段ほど登った高台にある寺は、石垣をめぐらしたお城のような構えで、はるかかなたには瀬戸内海の穏やかな海と点在する島々、眼下には「酔心」や「蘭菊」といった造り酒屋が軒を連ねる古い町並みと、その真ん中を貫く新幹線の軌道などを一望できます。私は十七歳までこの寺で暮らしましたが、進学のため上京してからは、帰ることもほとんどありませんでした。

父が残した日記や記録を読み、あるいは人づてに聞いたことですが、戦後の混乱期に住職になった父は、戦争中、僧侶でありながら戦争を賛美し兵士として従軍したことを悔いていたようで、全日本仏教会が募集したミャンマー（ビルマ）への留学に応募し、一年半にわたる南方仏教寺院での修行を終えて帰国すると、人々の荒廃した心に光を取り戻したいと、「萬松会」という団体を立ち上げました。会員数は千人を超え、茶道部や華道部、川柳部などを作り、四月の花祭りではブラスバンド部の先導で会員が市内をパレードしたり、夏には境内で盆踊り大会を開催したり、活発に活動していました。幼稚園児だった私は、連日賑やかな環境の中でたくさんの方々に可愛がられたことを断片的ですが覚えています。父はさらに歩を進めようと、貧困地区に檀信徒会館や図書館を建設すべく計画を遂行している最中、病に倒れ亡くなりました。

本来ならば住職が遷化したら、私たち遺族はお寺を出なければなりません。たまたま大きなお寺であったため、新しい住職や檀家さんのご好意で、寺の裏に建てた小さな家に住まわせていただき、母は晩年真光寺に移るまでそこで過ごしましたが、父の弟子である新しい住職と良い関係を築くことができませんでした。お寺の住職は出家しているので、先代の住職の供養はその家族ではなく、当代の住職が檀信徒と共に執り行い、家族はそこに参列させていただく形になります。私は三回忌以降の父の法事に出たことはありませんでした。振り返ってみれば、そんな肩身の狭い不安定な立場で過ごした成長期の記憶が、その後の私の生き方に大きな影響を与えたのは間違いありません。父母や関係の方々の悔しさや憤りを一身に引き受け、それに突き動され、歳月を重ねてきたように思います。

そんな私が父の五十回忌に参列できたのは、父の弟子であった住職が亡くなったからでした。新しい住職と檀信徒総代が私を先住忌に呼んでくれたのですが、おそらく来ることはないと思っていたと思います。しかし私は後ろめたいことがあるわけでもなく、また父の法要を行っていただけることに感謝したいと思い、悩んだ末に参加することに決めました。

寺の玄関を上がり中に入ると、昔と何も変わっておらず、五、六歳の頃の記憶が蘇ってきました。父の書もたくさん飾られています。父の仕事の痕跡も昔のままでした。そして多くの人に迎えられましたが、誰も私を知りません。八十歳近い総代でさえ、私はもちろん父のことも知らず、五十年という歳月を腹の底から実感しました。この寺に対する私のこだわりや愛着も、また家族や親族の思いも、すでに亡くなった人たちの思いや無念も、それを知っているのは私だけであることを思い知りました。それを引きずっていたのも私だけであると。

人は生まれた時から「私」だったわけではありません。経験と記憶が「私」を作ってきたのです。私の常識も、思いも、こだわりも私だけのものであり、時の流れの中で生起し、時の流れとともに消滅していきます。

道元禅師の『正法眼蔵弁道話』に、「花は愛惜に散り　草は棄嫌におふるのみなり」という一節があります。美しい花はどんなに惜しまれても散る時がくれば散り、雑草は嫌がられても繁茂する、というのです。春夏秋冬の中でそれぞれの役目を務め、それは思いや計らいに関係なく時の流れに乗ってどんどん過ぎ去って行きます。美しい花も嫌という程茂った草も枯れてしまえば二度と見ることはできません

が、次の春には新しい花が目を喜ばせ、夏には新しい草がはびこります。人の思いや計らいに関係なく、花も草も春夏秋冬の中でそれぞれの生を全うし、時がくれば去っていく、それだけのことです。

新住職、檀信徒、そして近隣の住職方に暖かく迎えられ、穏勤に法要をつとめさせていただきましたが、寺を流れる暖かな気と穏やかな風に、五十年の歳月が吹き飛ばされ、全てが抜け落ちていくような気持ちになりました。

「私」なるものの不確かな現実を突きつけられても、記憶を重ねた私のこだわりの中でしか生きていけない自分を思います。しかしそれは時の流れの中に滅していくことを思えば、冷静に消すべきものは消し、こだわりを離れて真実を見つめ、最良の選択をして次の未来に向かっていく方が良いように思います。私が変われば私の世界は劇的に変わると理解できた出来事でした。

またお正月が巡ってきます。去年の私と今年の私は確実に変化していることを肝に銘じて、新たな時をしっかり駆けて行きましょう。元旦より年頭の気持ちを新たにする願いの法要を行います。山内一同皆様のご参詣をお待ちしています。

来年もよろしくお願い致します。

合　掌

真光寺住職　岡本和幸

行事報告

◇盂蘭盆施食会（七月・八月）

七月七日、八月九日・十一日の日程で盂蘭盆施食会の法要が執り行われました。今年も多くの方がご参列され、それぞれ亡き人に対して感謝の思いを寄せていました。

八月九日の盂蘭盆施食会では、千葉県いすみ市の中瀧寺（ちゅうろうじ）副住職、久保田永俊（くぼた えいしゅん）師にお越しいただきました。お盆についてのありがたいご法話を賜り、会場が和やかな雰囲気になりました。

久保田永俊師によるご法話の様子

◇聖典講読の会

九月の聖典講読の会からは『正法眼蔵隋聞記』を題材に解説しています。この仏書は永平寺二祖である孤雲懐奘禅師が道元禅師の法話を筆記したものです。道元禅師が日常で弟子たちに説かれた修行者としての心得が、平易な文体で記されているので、これから曹洞宗の教えを学びたいという方にとっても取り組みやすいのではないでしょうか。住職による解説の後は、旬の食材を活かした美味しい精進料理をいただきます。こちらも大変好評をいただいております。

随聞記を解説する住職

『坐禅会』のおさそい

真光寺では毎月二回、第二・第四土曜日の午後三時より坐禅会を開催しています。

皆さんに坐禅をしていただく機会を増やしたいと考え、昨年の夏頃からスタートしました。

初めに坐禅会の内容を説明します。坐禅の時間は二十分の坐禅を二回坐ります。一回目の坐禅の後には経行（堂内を静かにゆっくりと歩くこと）を行います。それから、最後は茶話会といって、お茶やお菓子を頂きながら楽しくお話しする時間を設けております。この時に坐禅の事や仏事について等、質問が有ればお答えもいたします。

このように坐禅が初めてという方でも親しみやすく、参加しやすい内容になっておりますので、これから坐禅を始めたいという方はぜひ真光寺の坐禅会にご参加下さい。

最初の頃は参禅者が一人もいない時もありましたが、最近では毎回数名の方にご参加を頂いております。坐禅会を開く側としては、参禅者の方に毎回足を運んでいただくことは大変ありがたいことです。

※初めて参加される方は午後二時半までにお越し下さい。

縁の会総会報告

十一月三日、恒例の縁の会総会を開催いたしました。十一月三日というのは、「晴れの特異日」とされています。「特異日」とは、その前後の日と比べて偶然とは思われない程の高い確率で、特定の気象状態（天気、気温、日照時間など）が現れる日のこと。（ウィキペディアより）この日も、前日までは雨の予報が出ていたのですが、総会が始まる頃には青空に！実は昨年も同じパターンでした。それでということでもありませんが、毎年十一月三日を、総会の日としています。本年はお陰さまで第七回を迎えました。

総会の主旨は、縁の会の皆さまに真光寺の事業報告・会計報告を行うこと、そしてご参集いただいた会員同士で親睦を深めていただくこと、の二つを柱としております。

午前は、法要に引き続き住職より、山内の整備、事業運営とも健全に推移しておりますことをご報告しました。住職は、本年四月にシャンティ国際ボランティア会（ＳＶＡ）の専務理事に就任し、現在は週に３日程度東京の事務所にて勤務しております。

素晴らしい好天に恵まれ約130名がご参集。午前中は、法要と事業報告。

ＳＶＡは、東南アジアの七地域で学校・図書館建設をはじめとする教育支援事業を行っています。その活動の中に、各地域に絵本を届ける運動があります。第五回の縁の会総会から毎回、午後の活動として日本の絵本に各地域の言語のシールを貼って現地の子供たちが読めるように仕上げる、というボランティア作業を皆さんとともに行っています。シールを貼る順番や位置を間違えたら大変、ということで結構気を使いますが、皆さん楽しく作業してくださり、今年は百三十冊を寄付することができました。

ボランティア作業のあとは、チャリティ寄席。実はこちらも、ＳＶＡの活動の一環です。ＳＶＡのチャリティ寄席には落語芸術協会の若手芸人たちがたくさん登録していて、各地の企業や団体のイベントで芸を披露します。そこでの募金がアジアの子供たちへの教育資金として送られます。今回の出演者は、マジックショーの小泉ポロンさんでした。

そしてもうひとつ。「クラフトエイド」は、アジアの各地域の女性たちがそれぞれの民族の特徴を生かして手作りするバッグや小物などを販売するものです。その売り上げは女性たちの自立を助け、また、こどもたちの教育支援活動にも使われます。普段から真光寺食堂（じきどう）の一角に商品を置いているのですが、総会の当日はいつもより多くの商品を仕入れ、バリエーション豊富な中から選んでいただけるように用意いたしました。可愛らしいだけでなく、一つひとつ丁寧に作られた、手仕事ならではの魅力的な雑貨類です。お買い物でできる国際貢献！ご好評いただきました。

クラフトエイドコーナーと真光寺のお米、檀家さんの野菜販売。

午後は、各お堂で絵本のボランティア作業。

総会の最後は恒例のお楽しみ抽選会。特賞は真光寺のたんぼで生産した無農薬のお米十キログラムでした。

また、来年の皆さまのご参集をお待ちしております。

チャリティマジックショー

【　縁の会事務局からのお知らせとお願い　】

11 月 3 日の縁の会総会にて、縁の会事務局から墓苑の管理やお参りに関して下記の通りお願いいたしました。

●樹木葬墓苑お参りのご案内
・墓苑での火気使用は山火事の恐れがあります。ご焼香は、桜の苑、観音堂、仏殿でお願いします。
・供物を含む品物や食品、人 工物の放置、設置はご遠慮ください。
・供え花を植える範囲は墓碑の周囲、ポット苗 10 個程度。種類は一年草でお願いいたします。
・墓地の除草は土の流出につながりますので軽めにしてください。
・発生したゴミは原則お持ち帰りください。やむをえない場合は寺務所にお持ちください。

●樹木葬墓苑の管理とご利用
・一年を通じて定期的に下草の刈取りを行っています。季節や天候により管理工程以上に繁茂する場合もありますのでご理解のほどお願いいたします。
・樹木の強剪定や伐採も行います。目印にしていた植木がなくなるといったことも発生いたしますが、管理上の必須事項ですのでご了承ください。
・森の苑中央部の井戸は水が枯れる場合があります。「よび水」を入れても出ない場合には山門脇の水道をご利用の上、寺務所にお知らせください。

●害獣対策
・スズメバチを見かけた場合には、過剰な反応をせずに静かにその場を離れてください。
刺された場合には速やかに寺務所までお知らせください。
・ヤマカガシやマムシなどの蛇がいますのでご注意ください。
・カラスによるいたずらも増えており、追い払いを随時行っています。
・イノシシの侵入防止用に電気柵と金網を併用する対策を施しています。

●送迎について
・送迎をご利用される方は、前日の午後 4 時までにご予約ください。
・ご利用の場合は、車両の維持費に充当いたしますので、お布施をお願い申し上げます。

●花植え代行について
・ご希望の 1 月前までにお申し込みください。月単位の受付となり、日時のご指定には対　応いたしかねますので、ご了承ください。

●金額の変更のお知らせ
①花植え代行　　現在 3,000 円　→　本日受付以降　5,000 円
②のぼり旗奉納　　現在 3,000 円　→　来年受付以降　4,000 円
・花植え代行につきましては、仕入の都合で赤字となる場合もありましたので、このよう　に変更させていただきます。のぼり旗は法要の催事費に補填するために、変更させていただきます。

●ペットとの墓参、法事について
・ペットとの墓苑内のお散歩はできますが、建物内に入る場合は必ずゲージ、キャリーケースをご利用ください。

※上記のお知らせは、お墓参りにいらっしゃるご家族、ご親族、ご友人にもお伝えくださいますよう、お願い申し上げます。

上総自然学校（里山再生活動）

里山歳時記（さとやまさいじき）

初夏の訪れと共に里山の緑は一段と濃さを増していきます。生き物たちも活発に活動を始め、虫や鳥の鳴き声が山に響き渡ります。田植えをした苗はあっという間に大人の膝丈ほどに成長し、葉が青々としてくる８月のお盆には正月のお飾り用に刈り取り天日干しをして色止めをします。真夏の暑さと鮮やかな緑が自然を強く感じさせます。９月には黄金色に実った稲の収穫です。自然学校では化石燃料を使わず昔ながらのおだがけによる天日干しで乾燥させるので旨味が詰まったお米になります。田の神様は今年も収穫が無事済んだことを見届けて出雲へと向かわれたことでしょう。

空も緑も色鮮やかな季節です。

今年も無事収穫できたことに感謝です。

イベントだより

ー草取りとホタル鑑賞ー

田植えが終わり、暑さが増してくると田んぼには雑草が生えてきます。自然学校の田んぼは無農薬栽培なので放っておくとそこらじゅう雑草だらけになるので草取りをします。イベントでは昔ながらの中耕除草機という器具を使います。初夏の陽気で皆さん汗だくになりながらも綺麗に除草をしていただきました。夜はホタル鑑賞で薬を使わない除草作業の成果を楽しんでいただきました。

ートンボの観察会ー

自然学校が活動している里山には多種多様なトンボが生息しています。冬を越すものもいるのでほぼ一年中何かしら見かけます。観察会の時期はイトトンボの仲間が多く見られました。希少なものや色鮮やかなもの、ゆっくり飛び回るもの、触れることをためらうほど繊細な彼らはトンボの魅力の奥深さを教えてくれます。

ー稲刈りー

今年もたくさんの方に一年の実りを収穫していただきました。毎日のように食べているお米。今では機械で刈り取りしますが一昔前まで手で行っていました。イベントでは刈り取りからおだがけまでを手作業で体験していただいています。小さい子たちも自分の背丈ほどもある稲の束を一生懸命運んで「よいしょ!」と竹で作った稲木にかけてくれていました。

イベントのご案内

- ２月18日（日）　里山の野鳥観察会
- ３月31日（土）　里山のお花見トレッキング
- ４月14日（土）　畔塗りと稲苗作り体験
- ４月15日（日）　畔塗りと稲苗作り体験
- ４月22日（日）　巨木巡りと里山トレッキング
- ５月12日（土）　田植え体験
- ５月13日（日）　田植え体験
- ６月　２日（土）　田植えとゲンジボタル鑑賞
- ６月　２日（土）　水路の生き物観察会
- ６月　９日（土）　田んぼの草取りとホタル鑑賞

※各イベントの詳細は別紙チラシをご覧ください。

里山に棲む生き物を知る

生物多様性を目指して

里山での活動はお米づくりやイベントだけではありません。自然豊かな里山に生息する多種多様な生き物の調査や現地の視察、学校の課外授業なども行われています。生物多様性を守り、より多様な環境を育んでいくために、様々な分野の方々のご協力やご支援をいただいて、里山は今日も生き物がいっぱいです。

生物多様性センター

生物多様性センターという千葉県の機関の生物多様性調査団現地研修会が自然学校の里山で行われました。フィールド内での生き物の見つけ方を講習した後は珍しい生き物の紹介など、数々のフィールドで調査を行っている彼らも、里山の生物多様性にはとても驚いていました。調査では、見つけることも大事ですが、「いない」ということを確認することも大事な作業だそうで

生物調査　大島健夫さん

里山では毎月一回、外部の方に依頼して里山の生物調査をしていただいています。大島さんは生き物について驚異的な知識をお持ちなだけでなく、独特の視点で多くの愛情を注いでおられます。大島さんの調査によって里山の生物多様性がかなり明らかになってきました。そんな大島さんの世界観が分かる里山の生き物の本も出版されているのでご興味のあるかたは是非ご一

学校の課外事業

課外授業の一環として市原市立千種中学校の生徒さんが150名ほど里山に来てくれました。普段の生活ではなかなか触れたり目にする機会のない里山。トレッキングをしてフィールドを見学した後は開墾中の奥の谷津田や横井戸の見学、田んぼの草取り体験、トンボ池での専門家の解説など、これを機に里山に興味を持ってくれた子が継続的に訪れてくれればなお嬉しい限りです。

里山の動植物図鑑

ルリモンハナバチ

幸せを呼ぶ青い蜂

瑠璃色の体をした非常に珍しい蜂。この蜂が好む花とよく似た花が自然学校の里山にも自生しているので、生息することが出来ているのではないかと思われます。群れを作らず単独で生活していることもあって個体数が少なく実際に目にすることが出来れば幸せになれるかも。

カヤネズミ

日本最小！

日本では最小、世界では２番目に小さいネズミです。その名の通り茅や稲の間に鳥の巣によく似た小さな巣をつくります。よく見ると、葉の先を細く裂いて集めて巻いているので生えている稲の葉の先がそのまま巣になっているという面白い構造になっています。残念ながらあまり姿を見せないので今回は巣の写真のご紹介だけになります。

ネパールスタディツアー報告

副住職　國生徹雄

今年の六月、私はシャンティ国際ボランティア会（以下ＳＶＡと表記）主催のスタディツアーに参加させていただきました。ネパールの首都カトマンズ、二〇一五年の震災で被災したヌワコット、お釈迦様生誕の地であるルンビニの三地域を訪ね、ネパールの人々の生活や文化、仏教文化、そしてＳＶＡの教育支援活動について学んで参りましたのでご報告させていただきます。

六月四日の夜に日本を出国し、ネパールカトマンズのトリブバン国際空港には五日の昼頃に到着しました。入国の手続き後、車四台に分かれて乗り込み、初めにカトマンズ市内のホテルに移動。そこでブリーフィングを行いました。今回の参加者は十三名で多くは曹洞宗の若手僧侶、中には高校生も参加していました。それぞれに支援活動をしていたり、ボランティアに対して強い思いを抱いていることを知り、とても感銘を受けました。

トリブバン国際空港

人で賑わう空港の駐車場

熱心にブリーフィングを受ける参加者

ブリーフィング後、首都カトマンズから約五十キロ離れた場所にあるヌワコットに向かいました。三時間程で到着する予定でしたが、道路が渋滞したため、五時間以上かかりました。ネパールの交通事情は非常に悪いです。道路はほとんど舗装されておらず、信号もありません。また、沢山の車や人が行き交っているので、常にクラクションを鳴らし続けていました。ようやくヌワコット群のホテルに到着すると、時刻は夜の八時を過ぎていました。

二日目はヌワコット地区内にあるＳＶＡが支援をしているデビ小学校を訪問しました。その小学校は標高の高い所にあり、車で約三時間掛かります。そこまでの道のりはやはり、未舗装のガタガタ道です。私は車での移動中、愛知県からこのツアーに参加している、私と同世代の芹野（せりの）師と普段行っている活動やこのツアーに参加した経緯等をお互いに話しました。芹野師は元々在家の方で、子供の頃から僧侶になりたいという志を持っていたそうです。そして身内の葬儀の時に菩提寺の住職に懇願して弟子入りし、僧侶になったというお話を伺いました。大本山永平寺で長く修行され、今回のツアーに参加する以前も海外の修行道場で数ヶ月間修行された経験があるようで、僧侶としてどうあるべきか、高い理想を持っている方でした。このような素晴らしい方と出会うことができるということもスタディツアーに参加する醍醐味であると感じました。

デビ小学校到着

小学校に到着すると、子供達や先生方、村の住民の方々が笑顔で出迎えてくれました。それを見て、私は歓迎されているということを強く感じました。すぐに子供達との交流プログラムが始まり、初めは「しあわせなら手をたたこう」を現地語で一緒に歌いました。それから、今度は子供達だけでネパール民謡を私たちに披露してくれました。子ども達はとても楽しそうに歌っていました。その後、二グループに分かれて授業の様子や新校舎建設の様子を見学しました。冒頭でも述べましたが、この小学校があるヌワコット群は、震災で甚大な被害を受けた地域であり、デビ小学校も例外でなく、校舎のほとんどが崩壊してしまいました。震災後に建てられたという仮設校舎も拝見させていただきましたが、子供

子ども達との交流プログラム

達が勉強するには決して良い環境とは言えません。この学校は山の上に建っているため、強風の被害を受けやすく、夏は暑く冬はとても寒くなります。さらにはまともな教室が一つしかありません。そのような状況だと子供たちが登校しなくなってしまうので、新校舎の完成が急がれているというお話を伺いました。それを聴いて私は、日本はいかに環境整備が進んでいるかを実感したのです。学生の頃、綺麗な校舎や整った教育設備の中で生活を送っていたけれども、それは当たり前ではなかったということをここにきて思い知らされました。

新校舎建設現場の様子

三日目、この日はカトマンズからお釈迦様生誕の地であるルンビニに移動しました。最初に訪れたのはカピラバストゥという城跡地でした。お釈迦様がシャカ族の王子としてお生まれになり、二十九歳で出家するまでの間生活されていた場所がここです。城跡ですが、お城があったということが分かるものは東と西の門の遺跡以外はありませんでした。それから、私たちはその場で記念法要を行いました。お釈迦様のエピソードである四門出遊の伝説では、東、南、西、北の門から外出した時に、それぞれ老人、病人、死者、修行者を見て出家を志すようになったといわれています。その仏教のはじまりともいえる場所を自分の目で見ることができたことはとても有難いと感じました。

カピラバストゥ門の遺跡

この日訪れた場所でもう一つ印象に残っているのが、ルンビニの核心部にある、お釈迦様が生まれたマヤデビというお寺です。ここでは最初に本堂を内覧しました。私のもつ本堂のイメージとは全く違っていて、古代遺跡の博物館の様な感じでした。何故建物の中にこのような遺跡が残されているのかとツアーコンダクターの方に尋ねると、建物を建てることによって中の遺跡の風化を防いでいるのだと教えていただきました。一通り内覧し外に出ると、そこには四角い大きな池がありました。この池はお釈迦様の母が出産の前に沐浴し、お釈迦様の産湯にも使われたといわれており、大変神聖な池であるそうです。池の隣には大きな菩提樹がそびえたっていました。菩提樹はお釈迦様が悟りを開いた木です。菩提樹の周りには、木の下で深い禅定に入っている僧侶や木の周りに座ってお経を唱えている僧侶がいて、仏教の聖地であるということを実感しました。私はせっかくこのような場所に来たのであるから坐禅をしようと思い、短い時間ではありましたが他の僧侶の方と一緒に坐禅をさせていただきました。丁度心地よい風が吹いていて、とても良い時間を過ごすことが出来ました。

マヤデビの池と菩提樹

※続きは次号の瓦谷山だよりに掲載いたします。

ご寄進者ご芳名

金百萬円　斎藤てる子様
金拾萬円　鈴木謙一様
金伍萬円　齋　道子様
金参萬円　坂元淳一様
金壱萬円　山田寿子様

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。皆様からのご寄進は諸堂建立に充てさせて頂き、食堂の寄進芳名単にお名前を記し、永く寺録に残させていただきます。

平成二十九年年回表

一周忌	平成二十八年	
三回忌	平成二十七年	
七回忌	平成二十三年	
十三回忌	平成十七年	
十七回忌	平成十三年	
二十三回忌	平成七年	
二十七回忌	平成三年	
三十三回忌	昭和六十年	
三十七回忌	昭和五十六年	
五十回忌	昭和四十三年	
百回忌	大正七年	

行　事　予　定

“お寺で初詣”年頭祈祷法要のご案内（元日～３日）

新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念して個別のご祈祷を承ります。
右写真の木札を作成いたしますので、来山前にお電話等でお申し込み下さい。事前申込みが無い場合でもお受けできますが、お待たせすることがございます。

受付時間　午前９時～午後４時まで１５分刻み（元日～3日　３日は正午まで）
法要時間　約１５分
祈 祷 料　3,000円～5,000円程度
願　　意　木札に書き入れます、２つまでお選びできます。

①家内安全　②諸災消除　③諸願成就　④如意吉祥　⑤交通安全
⑥合格祈願　⑦厄除守護　⑧身体健全　⑨当病平癒　⑩身体堅固
⑪良縁祈願　⑫安産祈願　その他、車の祈祷等ご希望に応じてご祈祷いたします。

前年の御守、お札等がある方（当山以外の御守でもかまいません）はご持参下さい、お焚き上げいたします。

御仏供米
よろずのことに良い

ランドセル御守・ミニ御守
お孫様の交通安全に

交通安全
反射ステッカー

交通安全
御守

木札

※その他、恋の御守りや厄除け香守りなどご用意しております。

仏像彫刻教室　《どなたでも参加できます》

日時：毎月第１・第３水曜日
　　13 時 30 分～ 16 時 30 分
費用：　3, 500 円 / 1 回参加
場所：真光寺（参加者が 3 名以上で開催）
　仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきます。初めての方でも大丈夫です。それぞれの方に応じたペースで、取り組みます。　※要予約

坐禅会　《どなたでも参加できます》

日時：毎月第 2・第 4 土曜日
　　15 時～ 16 時 30 分
　初心者の方もやさしくご指導いたしますので気軽にご参加ください。脚がくめない方は椅子を使って参加して頂けます。休憩をはさんで 2 回坐禅をくみます。終了後は、僧侶と一緒に茶話会もございます。
※初めて坐禅をされる方は、簡単な説明を致しますので 14 時 30 分までにお越し下さい。

精進料理と聖典講読の会　《どなたでも参加できます》

日時：1 月 30 日（火）　2 月 27 日（火）
　　3 月 27 日（火）　4 月 24 日（火）
　　5 月 29 日（火）　6 月 26 日（火）
午前 11 時～午後 2 時 30 分
費用：3, 000 円　昼食付（精進料理）
場所：真光寺
　住職による『正法眼蔵随聞記』の解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅または写経を行います。昼食は、精進料理や手打ちそばをお出しします。

行　事　予　定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

修正会 《檀信徒》

日時：1 月 3 日（水）14 時より
年頭の檀信徒皆様の家内安全を祈願し、ご祈祷法要を行います。

春彼岸法要 《檀信徒》

日時：3 月 18 日（日）14 時より
春のお彼岸供養を行います。法要後には余興を予定しております。

紫陽花の会 《どなたでも参加できます》

日時：1 月 25 日（木）
2 月 22 日（木）
3 月 14 日（木）
4 月 19 日（木）
5 月 17 日（木）

午前 11 時より午後 2 時半頃
費用：1,000 円　昼食付（精進カレー）
境内や樹木葬墓地の植栽管理にご協力をいただく会です。花咲く寺を目指しております。是非ご参加下さい！昼食の精進カレーも大好評です。
※要予約

戒名を考える会 《縁の会会員　特に未授戒の方》

日時：3 月 13 日（火）午前 11 時より午後 2 時半頃
費用：3,000 円（昼食付）
定員：20 名
　戒名を考えることは、人生を振り返ることです。午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際にご自身の戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂にご安置します。
※要予約
※持ち物：漢和辞典

ご詠歌練習日 《どなたでも参加できます》

1 月　9 日・23 日
2 月　13 日・27 日
3 月　13 日・27 日
4 月　10 日・24 日
時間　5 月～ 9 月は 19 時半・10 月～ 4 月は 19 時より
※ご詠歌は、お釈迦さまの教えを讃え、ご先祖さまをうやまう心をやさしい旋律にのせお唱えするものです。

真光寺囲碁の会 初心者入門基礎講座 《どなたでも参加できます》

日時：4 月 4 日（水）～5 日（木）
　　14 時から翌日 13 時 30 分解散
費用：8,000 円　1 泊 3 食
場所：真光寺
　初心者の方も大歓迎！日本棋院六段の先生に基礎から教わり、囲碁をはじめてみませんか？日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。
※要予約

縁の会春彼岸法要 《縁の会会員》

日時：3 月 21 日（水祝）　11 時より
縁の会合同での春彼岸法要を行います。
昼食（お弁当）のご用意を致しますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。
欠席の場合でもお塔婆のみのご供養もお受け致しますのでお申し付け下さい。
※要予約

七日法要 《縁の会会員》

日時：1 月 7 日（日）　11 時より授戒式・月例供養、昼食（お餅つき）午後は年頭祈祷法要
　　2 月 7 日（水）　11 時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
　　3 月 7 日（水）　11 時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
　　4 月 7 日（土）　11 時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は花まつり法要と植樹祭
　　5 月 7 日（金）　11 時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏

※要予約　午前、午後のみの出席もできます。

永平寺団体参拝旅行

今回の団体参拝旅行は曹洞宗大本山永平寺を参拝いたします。曹洞宗のルーツであり、修行の厳しさでも有名な永平寺は多くの方がその緊張感を体験したいとご要望の多い参拝先でもあります。

永平寺の宿坊にて一晩泊まり、早朝のお勤めにて、参加者のご先祖、精霊供養を修行いたします。

永平寺の道中には兼六園や、この季節ならではの黒部アルペンルートの雪の壁も今回の目玉です。その他、善光寺や川中島古戦場など盛りだくさんの2泊3日旅行。是非ご参加ください！

日　　程：平成30年5月13日(日)～15日(火)
募集人数：35名（最低催行人数20名）
旅行代金：85，000円（供養のお布施込み）※二泊目の旅館は4～6名の男女別の相部屋となります。個別のお部屋をご希望の方は、別途10,000円にてご用意致します。（2名様より）

送迎のご案内【午前】

□電車の方

・上り電車の方（君津発逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】
・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

【平　日】
・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

・上り電車の方（木更津発普通千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時51分着
・下り電車の方（千葉発普通君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着
（千葉12時18分発）

□バスの方

【土日祝】
・品川発11時35分→袖ヶ浦BT12時27分着
・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
・新宿発11時20分→袖ヶ浦BT12時18分着
・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

【平　日】
・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
・新宿発11時20分→袖ヶ浦BT12時18分着
・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

各種お申込み連絡先

真光寺　〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634
TEL 0438-75-7414（代表） TEL 0438-75-7365（縁の会事務局） FAX 0438-75-7630
e-mail ennokai@shinko-ji.jp（縁の会）　satoyama@shinko-ji.jp（上総自然学校）